

いぶすき授業ポイント10

当たり前のことを、当たり前、継続して毎日実践しましょう。



1 教科の特質を意識した授業

- 授業者なりに教科の特質を一言で言える。常にその特質を意識して授業をする。

2 めあて（学習問題）が明確な授業

- 児童生徒が考えることができるめあてを立てる。「なぜ〇〇なのだろうか。」疑問形のめあてにすると、学習すべきことを具体的に与えて焦点化しやすく、予想等も立てやすい。

3 めあてとまとめの整合性のある授業

- めあての答えがまとめになっている。授業を設計するときに、「目標」⇒「まとめ」⇒「めあて」の順に考えてみる。

4 児童生徒が学習の見通しをもてる授業

- 何を、どのような方法で解決するかがわかる。児童生徒が、見通し〔予想・解決方法〕をもつ場面が設定されている。

5 児童生徒が考える場面が設定されている授業

- 学習を急がない。児童生徒が考える時間を十分に確保する。
（例）・予想、学習方法を考える場面
・めあてに対する自分の答えを出す場面
・自分の答えと他の人の答えを比べる場面

6 児童生徒が考えることができる発問がある授業

- 答えは児童生徒が言う。教師が言わない。（児童生徒に問う発問を）
（例）何をやるの。どうなると思う。なぜそう思うの。どうなった。なぜそうなったの。その結果から何が分かる。今日の学習で分かったことは何。等

7 構造的な板書がある授業

- 順序性と関係性が分かるように板書する。
→（矢印）が板書に多く使われていて、児童生徒の思考の手助けになる板書

8 見届ける場面・個別指導の場面がある授業

- 一人一人の本時の達成度を把握する。誰ができていて、誰が何をできていないかが分かる。
- できている児童生徒は更なる発展問題を。できていない児童生徒は分かるまで。

9 分かったことを説明したり記録したりする場面がある授業

- 「今日の問題は〇〇〇で、私は〇〇〇だと思って、〇〇〇の方法で調べたら、結果は〇〇〇でした。〇〇さんも〇〇の結果だったので〇〇だということが分かりました。」等のことを発表、ノート記録又は、自覚できる。

10 時間内に必ず終わる授業

- 必ず時間内に終わる。
・方法的なことを多用しない。
・問題解決をするために学習方法は厳選する。